

# 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 広島市立古田中学校  
教諭 吉原 輝明

1. 日 時 平成24年10月10日(水) 2校時 10:30～11:20
2. 学 級 第3学年6組 37名(男子19名, 女子18名)
3. 場 所 3年6組教室
4. 単元名 平和な社会の実現のための提言を発信しよう
5. 単元について

## (1) 単元観

本単元は、「みんなが幸せになる平和な社会」を目指した3年間の「総合的な学習の時間」のまとめとして位置付けたものであり、これから社会に巣立つ広島市の中学生として「平和な社会」を実現するために何ができるかを探究する学習である。

本単元で生徒が取り組む「平和」とは、単に戦争や紛争に相對する「平和」という意味にとどまらず、人々が安心して生活することまでを示す、広い意味での「平和」を含んでいる。

生徒が「平和」というキーワードのもとに、自分の身近な社会と国際社会を関連付け、主体的な探究学習に取り組ませることで、21世紀のグローバルな社会で、自ら課題を見出し、解決に向けて考え、主体的に行動できる生徒を育成したいと考えている。

## (2) 生徒観

本学級の生徒は、1学年でカンボジアの中学生との交流、2学年でアジア太平洋地域の大学生と「平和」をテーマとした交流を実施しており、「平和」や「国際理解」に関する興味・関心は高い。

生徒は、与えられた課題に真剣に向き合い、日々の各教科の学習に真面目に取り組み、基礎的・基本的な学力は概ね身に付けているが、資料を自分で活用し、比較したり、関連付けて考えたりするなどの力は、まだまだ不十分なところがある。また、日常生活であまり意識したことのないグローバルな課題に対しては、自分の問題として捉えることができない生徒や、自ら課題を解決する学習に自信がもてない生徒もいる。

## (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、さまざまな視点で広く「平和」という意味を考えさせるとともに、探究学習の見通しをもたせるため、単元の始めに、ゲストティーチャーを招聘し、ヒロシマやカンボジアの歴史、世界に貢献する日本の高い技術力などを学ぶ機会を設け、課題設定や学習計画を作成させることとした。情報収集の場面では、自分たちの課題解決に最も適した方法を選択させるため、情報収集の方法を多数紹介するとともに、体験的な情報収集を行うことができるよう、英語科教諭の支援を受けて、平和公園でのアンケート調査や外国人留学生と交流する場を設定する。整理・分析の場面では、収集した情報を種類ごとに分類させたり、複数の資料から因果関係を導き出させたりするなど、思考活動へと高めるよう指導する。その際、自分たちの整理・分析の方法の妥当性を検討させるため、中間検討会を位置付けることとした。まとめ・表現については、クラスの仲間や地域の人々、ゲストティーチャーなどの様々な人を提言対象とさせることで、相手意識や目的意識を明確にし、相手にあった発信方法を自ら選択させることとした。

単元全体を通して、探究学習の達成感を味合わせることで、今後、自信をもって社会に参画し、課題解決のために行動しようとする生徒となるよう指導していきたい。

## 6. 単元の概要

### (1) 単元の目標

国際社会の平和に関わる問題を自分の日常生活と関連付けて考えることによって生じた疑問を探究することで、問題解決能力を身に付けるとともに、自分ができる社会貢献の方法を考える。

### (2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 現代社会にある多様な課題に関心を持ち、自分が着目する課題を見いだす。
- イ 課題解決のための必要な情報を収集し、解決に向けて多角的、多面的に分析する。
- ウ 分析結果をふまえ自分の考えを提言としてまとめ、分かりやすく表現する。
- 【自分自身に関すること】
- エ 目標を明確にし、課題解決に向けて主体的に取り組む態度を身に付ける。
- オ 課題解決に向けて、提言を行動にうつそうとする。
- カ 自己の将来について夢や展望をもち、自己の生き方を考える。
- 【他者や社会との関わりに関すること】
- キ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、課題設定や情報収集、整理・分析に生かす。
- ク お互いの特性を生かし、協同して課題を解決する。
- ケ 持続可能な社会の構築のために、自分に何ができるかを考え、社会貢献しようとする態度を身に付ける。

(3) 単元で学ぶ内容

- ア 世界の国際的な問題や平和に関わる問題
- イ 日本の技術力の高さと発想力の豊かさ
- ウ 過去に固執しない価値観の転換
- エ 持続可能な社会を目指した取組内容

7. 単元の評価規準

| 観点      | 学習方法   | 自分自身   | 他者や社会とのかかわり   |
|---------|--|--|---|
| 単元の評価規準 | ① 新しい知識や情報を意欲的に取り入れ、多角的な視野に立って課題設定をしようとしている。<br>【(2) -ア, (3) -ア イ】   | ① 新しい知識や情報を得ることに意欲や疑問を持ち自ら楽しんで課題設定をしようとしている。<br>【(2) -エ】<br>【(3) -ア イ】 | ① 他者の意見や考え方を受け入れ、自分の考え方の修正や変容に柔軟に生かしている。<br>【(2) -キ】<br>【(3) -ア イ ウ】        |
|         | ② 調査や情報収集活動を通して、課題設定の修正や情報の追加を行い、整理・分析を進めている。<br>【(2) -イ, (3) -ウ】    | ② 課題解決に関して必要な情報を意欲的、計画的に収集し、整理・分析している。<br>【(2) -オ, (3) -ウ】             | ② 他グループとの交流から自分たちの調査結果やまとめと比較し、いろいろな視点で修正や改善を考えようとしている。<br>【(2) -ク, (3) -ウ】 |
|         | ③ 調査・分析した結果を論理的な提言としてまとめ、相手を意識した方法で分かりやすく発信している。<br>【(2) -ウ, (3) -エ】 | ③ 提言として発信したことを実践しようとしている。<br>【(2) -カ, (3) -エ】                          | ③ 社会に向けて行動しようとしている。<br>【(2) -ケ, (3) -エ】                                     |

8. 指導と評価の計画 (全 35 時間)

| 小単元名 (時数)        | 主な学習活動  | 評価規準及び主な評価方法 |
|------------------|---|--------------|
| オリエンテーション (1 時間) | ・「みんなが幸せになる平和な社会」を目指した3年間の「総合的な学習の時間」のまとめとして、「国際社会における平和」に関する探究学習を通して、国際平和について考えるとともに、論理的で、相手に分かりやすい発表の仕方を身に付けることを知る。 |              |

|  |   |                            |   |
|--|---|----------------------------|---|
| カンボジア<br>やヒロシマ<br>の歴史を知<br>ろう<br>(3時間)                             | <b>課題の設定</b><br>・平和という視点で、カンボジアとヒロシマの歴史を学び、平和な社会を実現するためには何が必要かを考える。<br>・ゲストティーチャー（スティーブン・ロイド・リーパー氏）の話から課題設定のための考え方やイメージをつくる。  | 学<br>①<br>他<br>①           | <b>観察・制作物による評価</b><br>・行動観察、ワークシート<br>・感想文、G Tへの質問等<br>・マインドマップ |
| 国際平和と<br>日本の技術<br>力の関係を<br>知ろう<br>(3時間)                            | <b>課題の設定</b><br>・世界に誇れる日本の中小企業の高い技術力が、国際平和の解決と関わりがあることを知るとともに、その発想の豊かさを自分たちの探究活動と関連付けて考える。  | 学<br>①<br>他<br>①           | <b>観察・制作物による評価</b><br>・行動観察、ワークシート<br>・マインドマップ                  |
| 課題を設定<br>しよう<br>(3時間)  | <b>課題の設定</b><br>・これまで学習してきたことをもとに、自分たちが解決すべき課題（研究テーマ）を身近な生活や世界の問題から設定する。<br>・「～について」ではなく、探究過程とゴールを見通してテーマを設定する。<br>・研究の仮説を立て課題を解決する計画を立てる。  | 学<br>①<br>自<br>①<br>他<br>① | <b>観察・制作物による評価</b><br>・行動観察・ワークシート<br>・作成したアンケートやインタビューの内容      |
| 課題解決の<br>ための情報<br>収集をしよう<br>(8時間)                                  | <b>情報の収集</b><br>・新聞記事、インターネット、文献、アンケートやインタビューなどから必要な情報を協同して収集する。<br>・情報収集する中で、課題解決に必要な情報なのかどうかを判断し、情報収集の仕方や方法の見直しを図る。   | 学<br>②<br>自<br>②<br>他      | <b>観察・制作物による評価</b><br>・行動観察<br>・収集した情報                          |
| 調査結果を<br>整理・分析<br>しよう<br>(8時間)<br><b>[本時 4/8]</b>                  | <b>整理・分析</b><br>・必要な情報を取捨選択し、種類ごとに分類したり、複数の資料から因果関係を導き出した入りして、自分たちの考えの根拠を明確にする。<br>・根拠と提言の理由の整合性を図る。<br>・ <b>中間検討会を通して、みんなが納得できる分かりやすい発信方法はどのようなものかを考える。</b><br>・他者の意見を参考に、自分たちの提言、理由、根拠の整合性を見直す。                   | 学<br>②<br>自<br>②<br>他<br>② | <b>観察・制作物による評価</b><br>・行動観察<br>・ワークシート                          |
| 提言として<br>まとめ、発<br>信し、提言<br>を実現する<br>ために何が<br>できるか考<br>えよう<br>(9時間) | <b>まとめ・表現</b><br>・整理・分析した結果を提言としてまとめる。<br>・相手意識や目的意識をもって、プレゼン方法を工夫する。<br>・発表会を行い、お互いの提言を評価しあうとともに、新たな考えを見いだす。<br>・発信に対する疑問や意見をもとに、「みんなが幸せで平和な社会」の実現を目指して何ができるか個人でレポートにまとめる。<br>・3年間の「総合的な学習の時間」を振り返り、自分の今後の生き方を考える。 | 学<br>③<br>自<br>③<br>他<br>③ | <b>観察・制作物による評価</b><br>・行動観察<br>・提言内容<br>・行動観察<br>・まとめプリント       |

## 9. 本時の展開

### (1) 本時の目標

発信内容、発信方法の違う2グループの提言を聞き、みんなが納得できる分かりやすい発信方法の特徴を見いだすことができる。

### (2) 本時の観点別評価規準

- 発表者の提言と理由、根拠が納得できるものかどうかを具体的に指摘することができている。
- 発表者の発信方法が、目的や意図が明確にされ、説得力のある説明であるかどうかを具体的に指摘することができている。

(3) 準備物

- 発表者が発信を行うために必要な機器 (パソコン), 評価シート

(4) 学習展開



|                                     | 学習活動  | ◇指導上の留意点<br>(◆個別の指導の手立て)  | 評価規準<br>【評価方法】   |
|-------------------------------------|---|---|--|
| 導入                                  | <p>1. 提示された意見が納得できない理由を考えることで学習の目的を理解する。</p> <p>○根拠がない。<br/>○根拠はあるが、必ずしもそうとは言えない。</p> <p>2. 本時のねらいを知る。</p>  | <p>◇ 論理的でない意見の事例を示し、納得できない理由を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・O型の方は、楽天的だ。</li> <li>・Aさんは、炭酸飲料ばかり飲むから病気になるだろう。</li> </ul> <p>◇ 2つの視点を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが納得できる提言であるか。(内容)</li> <li>・分かりやすい発信方法であるか。(方法)</li> </ul>  |  |
| <p>みんなが納得できる分かりやすい発信方法とは何かを考えよう</p> |   |   |  |
| 展開                                  | <p>3. 中間検討会の方法を理解する。</p> <p>4. Aグループ (Bグループ) の発表を聞き、2つの視点で評価する。</p> <p>5. 意見交流をする。</p> <p>○アンケート調査のデータ数が少ないので説得力がない。<br/>○根拠が1つしかないと必ずしもそうとは言えない。<br/>○結論を先に言った方が理由の意味がよく分かる。</p> | <p>◇ 中間検討会の方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間は、5分とすること。</li> <li>・聴衆は、2つの視点にそって、具体的なよさと課題を評価シートに記入すること。</li> <li>・発表終了後3分間評価シートをまとめる時間を確保した後、意見交流を行うこと。</li> </ul> <p>◇ 聞きながらメモを取らせ、後で整理させる。</p> <p>◆ 評価活動が進まない生徒には、教師が具体的な質問等をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言の根拠は何だった？</li> <li>・どうして分かりやすかったの？</li> <li>・隣の人と相談してみよう など</li> </ul> <p>◇ 質問があれば時間を確保する。</p> <p>◇ 必ず理由をつけて、良さと課題を発表させる。</p> <p>◇ 生徒の意見を2つの視点と類似性を考慮して板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが納得できる提言(内容)</li> <li>・分かりやすい発信方法(方法)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者の提言と理由、根拠が納得できるものかどうかを具体的に指摘している。</li> </ul> <p>【行動観察 評価シート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者の発信方法が、目的や意図が明確にされ、説得力のある説明であるかどうかを具体的に指摘している。</li> </ul> <p>【行動観察 評価シート】</p> |
| まとめ                                 | <p>6. 誰もが納得できる分かりやすい発信方法をまとめる。</p> <p>7. 学習を振り返るとともに、次時の課題を知る。</p> <p>○本時で学んだことを記入する。<br/>○次時の課題を知る。</p>  | <p>◇ 板書した生徒の意見をカテゴリーごとにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠となるデータは、2～3つ示す。</li> <li>・結論から先に説明する。</li> <li>・データはグラフや図で示す。 など</li> </ul> <p>◇ 本時のまとめを記入させる。</p> <p>◇ 生徒の学習状況の評価をする。</p> <p>◇ 次時は、各グループの提言を2つの視点で相互評価し、自分たちの提言の見直しをすることを知らせる。</p>  |  |

# 中間検討会 評価シート

H24年10月 日

( ) 組 ( ) 番名前 ( )

(発表した班: 班 テーマ: )

| 評価内容   | 評価                |
|--|-------------------|
| 1 納得できる提言であるか。   | 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 |
| <p>提言の根拠となっていた点 (具体的に書きましょう)</p> <p style="text-align: right;"></p> <p>提言の根拠として不十分な点</p>                            |                   |
| 2 分かりやすい発信(表現)方法であるか   | 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 |
| <p>よい点・改善点 (具体的に書きましょう)</p> <p>&lt;アドバイス&gt;<br/>★この発表を誰に発信したらより効果的だと思えますか?</p> <p style="text-align: right;"></p> |                   |

## 中間検討会 聞き取りメモ

( ) 組 ( ) 番名前 ( )

<発表グループ 班>



pixta.jp - 3933731

《メモ》発表を聞きながらメモしよう。

発表の内容

発表の方法

<発表グループ 班>

《メモ》発表を聞きながらメモしよう。

発表の内容

発表の方法

<発表したグループ 班>

《メモ》発表後の気づきなど

【本時のまとめ】



pixta.jp